

きょうと

週刊ニュースがわかる

学校訪問

特色ある活動紹介

府は小・中学校の「総合的な学習の時間」などを活用し、学校教育を通じて福祉の仕事への理解を促す「次世代の担い手育成事業」を昨年度スタートした。今年度は府内の小・中5校が実施している。同事業は延べ20コマ超と長期間で、福祉施設団体、福祉職能団体、NPOセンターなどが協働で基本カリキュラムを策定している。障害や高齢者について知識を深めたり、訪問先の職員らに取材し、仕事の内容などを理解した上で、現場での仕事を体験する。体験した時の写真や動画を使い、福祉の仕事の魅力伝えるCMや広報紙などを作り発表するのが課題だ。

京都市立養正小(左京区)の4年生28人は17日、市内の五つの福祉施設で仕事を体験した。このうち同区の特別養護老人ホーム「バ

福祉施設で仕事体験

お年寄りとお歌を楽しんだ後、お礼を述べる養正小の子供たち—京都市左京区のバプテスト・ホームで



京都市立養正小学校

次世代の担い手を育てる

バプテスト・ホームでは8人が、入所者の食事の後片付けを手伝った。お年寄りをリラックスさせるために一緒に歌を歌ったりした。昨年からの授業支援コーナー「ネイター」を務めているNPO理事長の原田紀久子さんは「若い時のボランティア体験から福祉の仕事に就く人が多いので、子供たちの仕事体験は将来の職業選択にとっても大切」と話す。

広間に集まったお年

寄りを前に、子供たちは当初、やや遠慮がちだったが、次第に車椅子のお年寄りに寄り添うようにして、童謡やナツメロをカラオケで合唱。飛び入りでピアノを弾くお年寄りもいて、会場は和やかなムードに包まれた。

村岡暹菜さんは「たくさんのお年寄りに会えて楽しかった」とこりこり。同ホームの諏訪基久施設長は、入所者らの笑顔を見ながら「子供たちとお年寄りの間に響き合うものがあったようだ」と評価した。【野宮珠里】